

8-6 資格・CPD部会

1. 主な活動の記録

(1) 資格・CPD 部会の開催

部会開催回数：11回

(2) 資格・CPD 部会の組織

資格・CPD 部会は、技術者の能力開発と適正な資格制度の確立を目指しており、RCCM 資格制度委員会、CPD 委員会の 2 委員会で構成されている。さらに、RCCM 資格制度委員会には自主学習システム専門委員会を設置し、CPD 委員会には集合研修調整専門委員会と CPD 監査専門委員会を設置して活動を行っている。

(3) 委員会の活動

a) RCCM 資格制度委員会

「①技術者資格登録制度への対応」、「②更新講習会の有効期限の設定」、「③RCCM 資格の未来像」、「④RCCM 関係料金の改定」を中心に活動を行った。

① 技術者資格登録制度への対応

河川、砂防および海岸・海洋などで施設別の出題数の調整、自主学習教材の維持管理分野での充実を図った。

RCCM 資格の登録を検討したが、登録要件を満たす技術部門がなかったことから、申請しなかった。

② 更新登録講習会の有効期限を 4 年とすることに伴う規定等の変更

規定等の変更手続きを終えた上で、更新講習などでの周知を実施した。

③ RCCM 資格の未来像

新資格の要否など、協会内部のアンケート調査を実施した。今のところ現状資格で十分であるとの意見が大半を占めた。今後、部門横断的な内容の資格が必要と考えられる。

④ RCCM 関係料金の改定

制度の創設以来、一度も料金改定を行っていない。収支が悪化していることから、制度の安定的な運用を図るため、料金を改定した。消費税を内税から外税表記に変更した。

b) CPD 委員会

「①CPD 監査の実施と結果の分析」、「②CPD ガイドライン及び解説書の改定と運用」、「③協会会員の CPD 取得支援」を中心に活動を行った。

① CPD 監査の実施

平成 28 年度の監査として、CPD 記録登録者の 1%程度を目途に 200 名を対象とし、監査を実施した。平成 23 年度から本格的な CPD 監査を開始したが、今回の教育形態別記録状況を見ると、前回に比べ業務経験の比率が 7%増加し、技術指導の比率が 5%減少するなど、教育プログラムの選択傾向に変化が見られた。監査結果の総括としては、新システム導入により、重大な不適合記録が大幅に減少するなど、CPD 記録登録は概ね適正に行われていると判断できる。

② CPD ガイドライン及び解説書の改定と運用

近年の業務の総合化・複雑化に伴い、総合的な技術力が必要となっていることから、マネジメントに関連する内容についても CPD 対象とするものとし「CPD ガイドライン（第 2 版）」、「CPD 解説書（第 2 版）」の一部を改定した。

③ 協会会員の CPD 取得支援

協会会員の CPD 取得を支援するため、DVD や WEB 等のメディアを活用することにより、多くの会員に利用していただくことを目的に検討を行った。今年度は、セミナーDVD を 4 枚作成し、協会会員各社に無料配布するとともに、WEB 上でセミナー動画を視聴できるシステムの検討・構築を行い、協会 HP 上で視聴できるようにした。

2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施する。なお、各委員会及び専門委員会活動の詳細は、8-6-1～8-6-5 に示す。

(資格・CPD 部会部会長 花岡 憲男)